

# ろんぶ<sup>ん</sup>ん

2019年3月21日放送：謝罪

論文①「家庭内における日中の謝罪言語行動：ホームドラマの謝罪談話の分析」

著者：李竺楠（鹿児島大学大学院 博士課程）

地域政策科学研究 15 卷 2018 年 3 月



左：論文プレゼンターの飯尾和樹（ずん）さん 右：論文著者の李竺楠<sup>りしゅくなん</sup>さん



中国から留学している李さんは、日本と中国のテレビドラマの謝罪シーンを比較し、日本人と中国人の謝罪戦略の違いを分析しました。 右端：ゲストの壇蜜さん

論文②「Apology Isn't Good Enough: An Apology Suppresses an Approach Motivation but Not the Physiological and Psychological Anger」

(日本語訳：謝罪は充分ではない：謝罪は怒りの接近の動機づけを抑制するが生理的・心理的怒りまでは抑制しない-中枢・自立・主観指標による検討-)

著者：川合伸幸（名古屋大学・中部大学 准教授）

PLoS ONE, 7(3), e33006



右：論文著者の川合伸幸准教授

謝罪ありと謝罪なしの反応			
	脳波	心拍数	汗 (皮膚電気反応)
謝罪なし	アンバランス	急上昇	上昇
謝罪あり	均衡	緩やかな上昇	上昇

川合さんは、怒っている人の脳波や心理反応を計測し、怒りに対し謝罪がどのような効果があるのかを分析しました。その結果、謝罪のあり・なしによって、脳波や心拍数には差が現われ（つまり謝罪の効果があり）、汗は変化が現われませんでした。つまり、謝罪は怒りのすべてを抑える訳ではないことが解明されました。さらに川合さんは被験者に心理テストを行うことで、謝罪は怒りの「攻撃性」は抑えるが「不快感」には効果がない、と結論づけました。